

小学校理科

小学校理科は楽しい。

多くの場合、入試もないし、教科本来の目的を思う存分楽しむことができる。

しかし、高校文系出身者が教員になるため、広く理科を学んできた学生が教員になっているとは限らない。従って、理科を積極的に受け持とうという先生が「多くない」現実がある。

確かに、理科を受け持つと面倒くさい。授業前の準備や後始末がある。ただでさえ忙しいのにこれ以上仕事を増やしたくないのも十分理解できる。

今、学力テストの結果が重視され、算数と国語に対する研究が盛んに行われている。

ただ、総合的な学習の時間をしっかり学んでいる学校の学力（学テ等の学力）が高いという結果もある。総合を学ぶ中で、国語や算数の基本的な力の必要性が理解され、学ぶ意欲が出るらしい。

ということは、理科を学ぶことで、同様なことが考えられる。

実験結果をグラフや表でまとめ、数値で表現し、文章でまとめ説明する。まさに言語活動そのものである。

とはいえ、だからといって理科を好きになる先生が増えるとは限らない。私は理科がわからない・・・、という声が聞こえるが、そんな誰もがすべてを知っていることはない。要は、児童と一緒に不思議を学んでいけばいいと思う。ただ、是非やって頂きたいのはできるだけたくさんの観察と実験です。先生が児童とともに、さまざまな観察や実験を楽しんでほしいと思います。顕微鏡でミクロを観察し、生物を育て、電気で器具を動かして楽しみましょう。

「理科の知識を多く持つ先生≠理科を上手に指導する先生」である。先生が児童と一緒に自然を学んでほしいと思います。

初任小学校教員に理科実験研修を行うととても楽しそうで、歓声が上がる。自分が楽しいことは子供も楽しいのである。その楽しさを子供に提供してほしい！

さあ、チャンスがあれば理科を受け持ちましょう。先生の教員キャリアが大きくひろがります。